

木育のウラ 1月30日(日)

第3部 木育・森育の未来はどっちだ？

コーディネーター： 若杉 浩一(武蔵野美術大学)、谷地 大輔 (パワープレイス)

コメンテーター： 津高 守 (J R九州コンサルタンツ(株) 取締役副社長)

出演： 武蔵野美術大学のみなさん

北海道木づかいチーム (鈴木 正樹、佐藤 司、山本 賢治、原田 泰、高田 傑)

宮崎チーム (外山賢、石田達也、川上宰)

武蔵野美術大学教授、若杉浩一が仕掛けた宮崎県そして北海道森町でのプロジェクト。そこに参加した大学生、そしてしっかりと向き合った大人たちが素晴らしい議論を繰り広げる。進行はタニチシステムの谷地大輔。3部はまさかの3時間超え真剣勝負。ゆっくりと動画をご覧ください。



新しい産業、社会をつくるために

最終コーナーと言いつつ折り返し地点。ここからは大学3年生のメンバーと大人たちの対決となる。産学協同プロジェクト研究。9月10月の2か月間、大学生が地域や企業の実際

に存在するプロジェクトを取り扱う試み、地域資源の中で主に林業をやったチームのプレゼンテーションと大人たちとの大議論。

社会全体で新しいデザイン教育、創造的な思考を広げて新しい社会をつくらなければいけない時代に来ている。そこでいかに武蔵美の学びを地域に浸透させていくか、そのためのバックグラウンドが必要だと。そこで市ヶ谷に拠点を作り全国に羽ばたき新しい産業や人材育成に向かっていく。そのためのプロジェクトを走らせている。その中で今日は北から南、森町と宮崎のプロジェクトに発表してもらう。

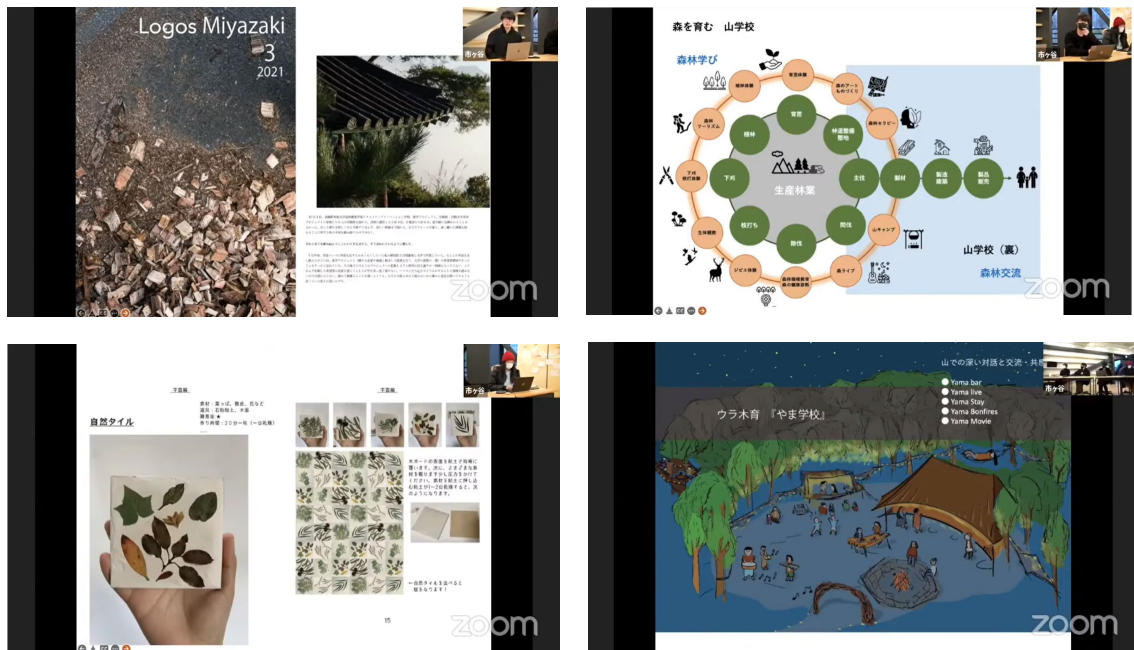
林業を通じてどんな新しい価値があるかというプロジェクト。林業と異業種が合体したチームで新しい産業を作るという内容で今も続いている。

宮崎チームの内容

山の産業があるが大切なのは産業の付加価値だけではなく市民が山の価値を共有、認め、共感する仕組みではないだろうか。その中心にあるのが「山学校」という学び楽しむための仕組み、その中で山に感謝するフェス「山大感謝祭」、それと自然資本を我々が知るためのメディア「IKIRU KUU」、山のメディア「LOGOS」、山の恵みから様々なアートワークを生み出す「森ラボ」、今回の楽会ともリンクする内容「ウラボ育『やま学校』」、これらを考え提案する。さらに進行役の谷知氏による、令和の租税制度としてふるさと納税を行う「宮崎株式会社市場」の提案も加わる。

山林資源、自然資源から新しい地域の産業を提案するため、1 か月森町に滞在してプロジェクトを実施。産業を作るための交流拠点のあり方、交流にいかに関与があるかをそれぞれの立場から考えた。

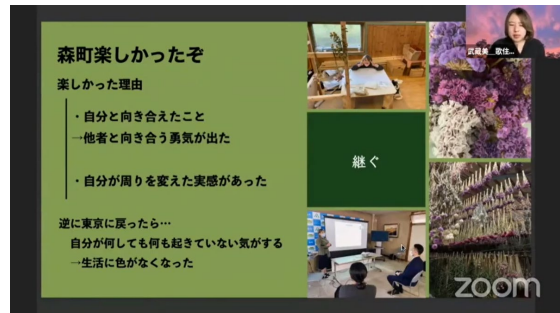




森町のチームの内容

「活動日記を起こす」「5年後、10年後の森町と自分の未来・関わりを考える」という課題設定から、その内容はキーワードで綴られた。「名刺プロジェクト」「対話を促す宿」「森町での生活の意味」「人と関わり対話する」「継ぐ」「変わる町」「鏡と額縁」「自認 関心 共感」「世界を変えられるかもしれないという謎の自信」「いい未来をつくる」「出会った人 ただその人のためにデザインをする」「森町未来予想図」。1か月の生活の中で成長を見せていただく発表の数々。





宮崎チーム、森町チームを見守り続けた大人たちの熱いコメントと真剣な遊びの要素も混ざりあう、濃厚な3時間強。あっという間のようにも感じた木育・森育楽会の2日間は、参加者、視聴する楽会員の感涙を誘いながら締めくくられた。



木育・森育楽会 **ウラ** 第3部 木育・森育の未来はどちらだ？

ムサ美学生 VS 木育大人

武蔵野美術大

森町 市ヶ谷
大塚 宮崎 にオープンラボ

宮崎奇チーム 県のプロジェクトに
入り込んでの取組

山産業を盛り上げるには市民が関係なくては。
そのために

食べる 生きること

オホリアキコさん (アンジヤム)

山大感謝祭 人と人が会うことで
できる衝撃 → これに対して感謝

・地元の学校林などで 枝打ち・下草刈り。

▶ 子供や障害者でも参加できるよう。

生産性というワケでおしはかれない

価値を見い出す。山は誰でも
受け入れてくれる。

光の森を
体験



・子供～大人まで参加できるものを。
大きな子が小さい子のために作るアス

ハセカワリョウさん (ハセリョウ)

東京生まれ 東京育ち。
今まで話したことのない
人と会って話の何がイイと思った。

Logos (冊子)

宮崎プロジェクトの魅力を
紹介する冊子

ウノさん

宮崎山学校

アート作品作り

ササキさん

宮崎県の
再造林率は
75%位。
(全国平均は30~40%)

宮崎林式市場

令和の租税制度として... 学生チームで考えたことを
大人がシステムに
おとしこみ。

ふるさと納税

納税してもらった企業や個人に、
苗木が成長した分の炭素ポイントを付与。

ハヤシアルト君

山学校の ウラ山学校

山の産業を作るのではなく、

山が産業

人と人との接点 (食べる、飲む)
活動でわからないことを対話でわかる
山で飲む!!!

森町チーム

森町プロジェクト

山だけでなく、

海もあるし、次産業もある。(1万人弱)。

6名の女学生が1ヶ月滞在

地域産業

高橋さん ケツムス× (ダンス、食、酒が好き)



① 記録をつける。

② 自分が森町に住んでいた姿
想像する。

③ 10年後の森町を想像する。

森町の魅力は... 学生が夢をかなえるのにちょうど
よい

「もりまるクリエイティブイノベーション課」ができた!

→ 名刺のアイデアがすぐ採用になった。

東京では企業の本音が見えなかった。

固体の東京 液体の森町 (森町の本質)

乾友乃 さん



2021年の9~10月森町で生活
ここで生きていくカウゴ

森町に来たことで
苦手だった人とも対話をし、
1人では生きていけないと気が付いた

東京での生活は
経済活動

森町での生活
人間との対話

歌住 さん

北海道(札幌)出身

続けたい!



ドライフラワー 農家にばれ人だ
→孫のように対応してくれた
自分と向き合えた。

他者と向き合う勇気が出た

自分の手の届く範囲で
物事を変えられる感覚!

東京は何をしてもいい場所だけど
何をしても囲りに響かない場所。
(うちつつら)
森町で生きる希望を感じた。

清里 さん



地域おこしの大変さを感じた。

自認 関心、共感

地域の人々が習得しているものじゃないとためた。
自分は部外者だとわきまを
ことも重要。
自分と対話しなくては
ならない。

森町の人に
「森に何しにきたの?」
何も無いのに〜
と言われてはじめて
関心を持てた。

春澤 さん

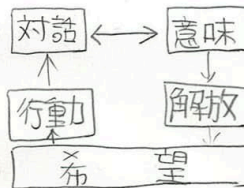


本気で遊んで楽しんだ!
私たちがからついてきた!

森町で得られたもの。
・やりたいことをすれば
意味は後からついてくる
・世界を変えられるかも
という謎の自信

希望 楽しい!! スラッ!!

東京 本当につまんないと感じる。
→何が足りない? 対話が足りない



小中高12年間で
「いい未来を
つくりたい!!」
と思えたか?

ファブラホで
想像力でいくらでも楽しめる最高の場

平田 さん



★血の繋がりのない土地に
帰りたいと思える場所が
できた。
中固発表でホロホロに泣いた
→(株)商舎の水山さんに
「実際に森町の人に会いに
行ってみたら」とアドバイス。

55人に会いに行った。

その中でやりたい事が見えてきた

①水山さんへのマクカップを作っている
「コーヒー農園を作っている。

そのコーヒーのじみが毎年少しずつ残る

②森町の未来予想図を描いた。

→そしたら町長からスラッお返事が。

ここで私が

タイムアップ!! あーまたかた

